

上関地区

上関町内各地の魅力的な場所を紹介する「上関てくてく散歩シリーズ」。6回目の今回は、上関地区を紹介します。

古くから海上交通の要衝として栄えた上関。江戸時代には、朝鮮通信使や九州の大名の参勤交代の際の寄港地になるなど、萩藩（毛利本家）の重要な港として藩の直轄地になっていました。さらに、北前船が寄港するようになってからは、潮待ち、風待ちの港として大いに賑わいました。

上関地区の路地を歩くと、當時を偲ばせる商家の建物や藩の施設等の史跡が数多く残されており、港町・上関の歴史を垣間見ることが出来ます。



旧上関番所。旧番所は、海の主要な港に設けられた関所であり、通行人や船舶の取り締まりを行うとともに、運上銀（藩に収める税）の徴収事務も行うところでした。もともとは海岸沿いにありましたが、平成8年に現在の場所に移築されました。



上関越荷会所は、現在の保健センターの場所にありました。



坂田家。江戸時代の商家のたたずまいが今も残っています。

上関てくてくマップ

竈八幡宮の鳥居→



↓六地藏



青い海、青い空、緑の山、港に浮かぶ船、赤灯台の向こうに見える上関大橋。のんびりとした港の風景に心が和みます。→



↑港の前の道路からひとつ山手に入った路地に面した「ギャラリー武内」。自ら絵画を描く店主の作品展示をはじめ、上関の歴史を伝える写真展などの企画で楽しませてくれています。また、上関町観光協会の事務局にもなっていますので、気軽に立ち寄ってみましょう。



↑「鳩子てんぷら」の上関水産。

オリジナルのお菓子が楽しめる「菓子舗よこみち」→



上関のおみやげと言えば、上関名物の「鳩子てんぷら」と、「よこみち」のお菓子。どちらのお店も、港のすぐ近くにあります。

◎「わいわいタイムス」8月号は8月3日(日)発行予定です。